

図書館だより



京都市立九条中学校

図書館

令和7年度 第2号

われらが『京都』再発見！

大型連休も終わり日常に戻りましたが、京都には連日たくさんの観光客の姿があふれています。多くの賛辞をいただく京都に住む私たちも、改めてその良さを感じられるような本を集めてみました。

この時季、美術館や博物館の展覧会もおすすめてです。その際の予習・復習に使えるものも、図書館にありますよ。お家の方もぜひ一緒に！



★『もっと知りたいモネ』⇒京セラ美術館にて『モネ 睡蓮のとき』

★『もっと知りたい俵屋宗達』⇒京都国立博物館にて『美のるつぼ』

いずれも素晴らしい展覧会でした！

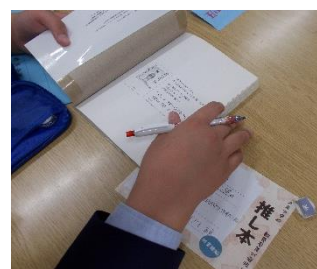
本と現物を共に味わってみてください。



教養委員会の活動『推し本』

委員会活動の一つとして、教養委員さんからみなさんへおすすめ本を紹介します。

各自が図書館の本から推しの一冊を選んで読み深め、あらすじやアピールポイントを短い文にまとめて書いてくれました。各学年のフロアに掲示しますので、ぜひ見てください。そして、あなたも『推し本』を読んで、教養委員さんと感動を共有しましょう！



絵本、推理小説、スポーツ関連、哲学や心理に関するもの、さまざまな分野の本が選ばれています。ふだんはあまりなじみのないジャンルの本を読むのもいいですね。



新着本の紹介

■ 森見登美彦 「シャーロックホームズの凱旋」

中央公論新社

舞台はビクトリア朝京都。洛中洛外に名を轟かせた名探偵ホームズが…まさかの大スランプか。謎が謎を呼ぶ展開です。



■ 宮島未奈 「それいけ！平安部」 小学館

あの『成瀬シリーズ』の作者によるハートフルな青春小説。高校の新入生が「平安部」を創設します。「いみじ！」という言葉とともに少しずつ前に進んでいく部員たちの姿が、まぶしくもありほほえましくもあり。京都も蹴鞠の大会の場所として登場します。

■ 海堂尊 「トリセツ・カラダ」 小学館

「カラダのトリセツ（取扱説明書）みたいに、おおざっぱなことが『ざっくりすべて』書かれている本がない」「ないんだったら作っちゃえ」という筆者の思いつきから生まれた本。ヨシタケシンスケさんのイラストもいい感じです。



■ 古賀史健 「さみしい夜のページをめくれ」 ポプラ社

「嫌われる勇気」を著した筆者が、初めて13歳において書いたシリーズの第2弾。主人公のうみのなか中学校3年生タコジローは進路に迷っていました。そんなとき、本の中の言葉で占ってくれるヒトデに出会います。ふだんあまり本を読まない人、本に集中できない人、学ぶ気持ちはあるもののどこから始めたらいいのかわからない人…そんな人にもおすすめです。

■ エド ヨン 「動物には何が見え、聞こえ、感じられるのか」 柏書房

私たちは周りの世界をどのように見ているのでしょうか。つい人間中心の感覚でものを捉えてしまいますが、人間が進化の過程で失ってしまった知覚能力もあるそうです。優れた感度で知覚している動物とも比較しながら壮大で深遠な感覚の世界にふれてみましょう。



■ 鈴木俊貴 「僕には鳥の言葉がわかる」 小学館

科学エッセイです。言葉をもつのは人間だけだという常識を覆し、「シジュウカラが20以上の単語を組み合わせ文を作っている」ことを世界で初めて明らかにしました！